

令和4年度 安芸市立土居小学校 学校評価 自己評価書

学校教育目標 「生き生きどいっ子」

令和5年2月10日

中・長期 経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な取り組み)	達成基準	達成状況	自己 評価	改善方策	関係者評価講評	関係者 評価	
心の教育・ 特別支援教育	心豊かで助け合う子の育成	1. 主体的に考え、判断し行動できる児童の育成 2. 一人ひとりが認められ感を感じることができる居心地の良い学級づくりに努める。 3. 校内支援体制を確立することにより、特別な支援を要する児童への指導・支援を充実する。	1. 児童が企画・立案・実施する異学年交流活動の機会を積極的にとったり、児童が主体的に話し合い活動を行う学級活動に取り組む。 2 一人ひとりをきめ細かく見取り、他者から価値付けられる場面を設定することにより自己肯定感を高める。 3. 全教職員がチームとして特別な支援を要する児童に関わる事ができるよう、支援体制を確立する。落ち着いた学校環境づくりに努める。	1. 【道德意識調査】・学校の決まりを守る。93%以上・人が困っている時は、進んで助ける。95%以上【学校評価】・子どもたちは挨拶ができています(地域)80%以上【夢プロ】・係の仕事やそうじを最後まで責任をもって取り組んでいる。90%以上・まわりの人の役に立っている。80%以上 2. 【道德意識調査】・自分には良いところがある。80%以上。【夢プロ】・授業で友達と協力したり、話し合ったりする活動をよくしているか。80%以上 3. ・新規不登校児童数1名以下。【学校評価】・学校生活に満足している。(児)90%以上【夢プロ】・授業中に自分の思いや考えを安心して言えるか。80%以上	1. 【道德意識調査】・学校の決まりを守る。90.8% (90%)・人が困っている時は、進んで助ける。98.6% (92.9%)【学校評価】・子どもたちは挨拶ができています(地域)75% (79%)【夢プロ】・係の仕事やそうじを最後まで責任をもって取り組んでいる。94.4%・まわりの人の役に立っている。66.7% 2. 【道德意識調査】・自分には良いところがある。71.8% (75.6%)【夢プロ】・授業で友達と協力したり、話し合ったりする活動をよくしているか。90.3% 3. ・新規不登校児童数2名。【学校評価】・学校生活に満足している。(児)92% (84%)【夢プロ】・授業中に自分の思いや考えを安心して言えるか。76.4% (QU78.3%)	B	○学級活動や異学年交流、学校行事が児童主体の活動となるよう取り組んできたことにより、学校生活に満足している児童や、友達とともに学習や活動を行うことの喜びを感じている児童が増えた。 ●自己肯定感の低さから、学級集団等で自分の思いを安心して発言できなかったり、人の役に立っていることを実感できていなかったりする児童が多い。	・学校では多様な登校スタイルを認め、不登校児童も登校しやすいよう対応に努めているが、社会に出た時のことを考えると心配である。 ・児童同士のかかわりや会話を見聞かすると、友達との失敗等への言葉がけがきついが気になる。また、友達同士のトラブルを見かけても、自分からは、かかわらない傍観者の立場でいる児童が増えていっているように感じる。 ・児童は、家庭では際限なくゲームやYouTubeをしており、家族と一緒に風呂に入る等もしておらず、時間の感覚や生活意識が薄れていっていることが懸念される。	B
	すすんで体を鍛える子の育成	1. 運動好きな児童の育成に努める。 2. 体力や運動能力の向上を図る。 3. 基本的な生活習慣を身に付ける。	1. 体育の授業改善に取り組むとともに、体育集会では基礎的な運動能力の育成につながる活動を取り入れる等し、児童の外遊びの機会を増やす工夫を行う。 2. 朝の会や授業の始めに柔軟性を高める運動や単元で高める下位運動を取り入れる。 3. テレビ・ゲームの長時間使用による悪影響の指導を行ったり、家庭との連携を図る事により基本的な生活習慣を身に付けさせる。	1. 【全国体力運動能力テスト】・運動が好き93%以上・体育の勉強が楽しい。95%以上【どいっ子のくらし】・30分以上体を動かした。85%以上 2. 【全国体力運動能力テスト】・「総合評価」「50m走」「立幅跳び」「ボール投げ」「握力」「上体起こし」全国平均以上。・姿勢に気を付ける90%以上(体育部) 3. 【どいっ子のくらし】・生活リズム名人40%以上・テレビゲームの長時間利用肯定60%以上・早寝肯定70%以上	1. 【全国体力運動能力テスト】・運動が好き93%以上・体育の勉強が楽しい。95%以上【どいっ子のくらし】・30分以上体を動かした。79% (83%) 2. 【全国体力運動能力テスト】・「総合評価」男子54.62 (+2.34) 女子56.69 (+2.38)「50m走」男子9.49 (+0.04速い) 女子10.03 (-0.33速い)「立ち幅跳び」男子149.08 (-1.75) 女子147.64 (+3.09)「ソフトボール投げ」男子19.23 (-1.08) 女子14.14 (+0.97)「握力」男子16.31 (+0.1) 女子16.07 (-0.03)「上体起こし」男子7.85 (-1.01) 女子16.86 (-1.11) 3. 【どいっ子のくらし】・生活リズム名人35%(27.4%)・テレビゲームの長時間利用肯定56% (51%)・早寝肯定63% (61%)	B	●【どいっ子のくらし】の課題は、今年度も、早寝・テレビゲームの長時間利用によって就寝時刻が遅くなり生活リズムの乱れにつながっているのではないかと考える。今年度、4～6年生と保護者は、PTA講演会で「良い睡眠と正しいメディアの使い方について」話を聞いたが、生活の改善には至っていない。また、30分以上体を動かした児童の割合も減少しており、体育の授業改善や体育集会の工夫等に努め運動好きな児童を育成したい。		B
学校安全	危機管理能力の育成	1. 自然災害や事件・事故等の危険から命を守り抜こうとする意識を持たせるとともに、実践的行動力を身に付ける。 2. 地震や火災等に対する科学的認識を高め、安全に避難できる実践力を身に付ける。 3. 教職員の危機管理能力のさらなる向上を目指す。	1. 児童の発達段階に応じた系統的な安全教育の実施や、関係機関との連携を図りながら、安全教育を推進する。 2. 自ら命を守るために必要な知識・技能を身に付ける授業の実践。自分で判断し、最善の避難方法がとれるための避難訓練実施。 3. 定期安全点検の継続実施と危険箇所の修繕をする。各マニュアルの見直しと研修を充実させる。	1. 児童の発達段階に応じた系統的な安全教育の授業各学年5時間以上実施。 2. 「災害時の避難方法が分かる」95%以上。実践力向上を目指した地震、火災等避難訓練3回以上。 3. 定期安全点検を確実に実施する。危険箇所は可能な限り早急に改修する。	1. 児童の発達段階に応じた系統的な安全教育の授業:各学年5時間以上実施。 2. 「災害時の避難方法が分かる」92%(93%)。地震難訓練2回、火災避難訓練1回、洪水・浸水避難訓練1回。 3. 定期安全点検を確実に実施する。危険箇所は可能な限り早急に改修する。	C	○全学年安全教育にかかわる授業を5時間以上実施し、避難訓練も計画通り、4回実施することができた。 ●校舎の老朽化に伴って、破損箇所が大変多くなっているため、「定期の安全点検」で確実に危険箇所を発見できる方法に改善していく必要がある。また、危険箇所についても、早急に対応されないことがあるため、児童にも「事故や怪我の防止」についての安全教育をしっかりと行い、落ち着いた学校生活を送れるよう指導していく必要がある。	・6年生の「景観学習」に参加したが、これまで地域の様子をしっかりと学んできているため、昔と今の違いから、実際の場所をすぐに見つけて訪れることができていた。また、それぞれの現地では防災学習や避難訓練での経験を生かした発言をしている児童がいた。	B
	信頼される学校づくり	1. 地域学校協働本部からコミュニティスクール発足に向けた取組を推進し「地域とともにある学校づくり」を目指す。 2. 児童が、ふるさと「土居」の良さを実感し、豊かな郷土愛を育む。 3. 不登校やいじめ・虐待等の発生をなくし、居心地のよい学級・学校づくりを目指す。	1. 学校からの情報を積極的に発信し、地域や保護者の方々に、学校行事や教育活動へのより多くの参加を呼びかける。 2. 地域のゲストティーチャーを招聘し、土居の歴史や景観についての学習活動を推進する。 3. 生徒指導を充実させるとともに、様々なアンケート等の活用分析を行い不登校やいじめ・虐待等の早期発見・早期解決に努める。	1. 地域学校協働本部ボランティアの活動の幅を広げ、延べ人数を増加していく。 2. 【学校評価】・あなたは、土居地区のよさを学ぶことができているか。93%以上。 3. ・新規不登校児童数1名以下【学校評価】・学校はいじめ防止に積極的に取り組んでいる。(保)80%以上・悩みや困った事を先生に相談できる(児)93%以上(保)72%以上。	1. 地域学校協働本部ボランティアの活動の幅を広げ、延べ人数を増加していく。 2. 【学校評価】・あなたは、土居地区のよさを学ぶことができているか。90% (90%) 3. ・新規不登校児童数2名【学校評価】・学校はいじめ防止に積極的に取り組んでいる。(保)65% (72%)・悩みや困った事を先生に相談できる(児)86% (90%) (保)68% (68%)	C	●児童は「自分や友達のことを大切にしていますか」97%、教職員「児童が自分達や友だちを大切にすることができるよう指導に努めていますか」100%の回答となっているにもかかわらず、保護者「学校は、いじめ防止に積極的に取り組んでいると思いますか」65%と認識の差が大きい。児童の学校生活アンケートでは「嫌なこと悪口」の回答が24.5% (R3)⇒11% (R4)と減少しており、今後さらに保護者にも、安心して子どもたちを通わせてもらえるよう、全教職員で、些細なことも見逃さず、児童をいじめの被害から守る取り組みを進めていきたい。また、学校の取組情報を積極的に伝える等、保護者との連携を密にしていきたい。さらに、児童・保護者ともが「教職員に何でも相談できる」よう、信頼関係づくりに努めたい。	・コロナ禍で、保護者同士も顔を合わせる機会が減り横のつながりが薄れている。また、先生とも親しく話したりする機会が減ったことから、もし、何か困ったことがあっても相談できるほどの親密な関係になれていないと感じているのではないかと。 ・子ども同士のトラブルの対応の仕方に納得ができないと話すことがあるので、双方からきちんと話を聞く等の対応に努めてほしい。	B
連携									

※ 達成状況の()内の数字は昨年度の値です。
※ 評定について・・・A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:やや不十分 D:改善を要する